

2018年（平成30年）4月26日

2018年度 鉄道・バス設備投資計画

安全対策とサービス向上に総額126億円

ホームドアの全駅設置準備工事や相鉄・JR直通線用の新型車両を導入

相鉄グループ

相鉄グループでは、2018年度に鉄道事業とバス事業において、総額126億円（鉄道事業115億円・バス事業11億円）の設備投資を実施します。

鉄道事業（相模鉄道㈱：本社・横浜市西区、社長・滝澤秀之）では、お客さまの安全と安定輸送を確保するため全駅へのホームドア設置（2022年度末完了予定）に向けた準備工事を進める他、2019年度下期に開業を予定している相鉄・JR直通線用の新型車両「12000系」を導入します。また、車両機器や電気設備の更新等も行い、さらなる安全性の向上を図ります。この他、お客さまへのサービス向上のため「デザインブランドアッププロジェクト※1」の統一コンセプトに基づき既存車両や駅舎のリニューアル、ホーム待合室、行先案内表示装置の新設を行います。

バス事業（相鉄バス㈱：本社・横浜市西区、社長・菅谷雅夫）では、さらなるバリアフリー化を推進するため、大型ノンステップバス19台を導入する他、安全性の高いASV※2型の高速バスを初めて導入します。

詳細は、別紙のとおりです。



相鉄線 横浜駅に設置したホームドア（左）と2月にデビューした新型車両「20000系」（右）

(記号：◎今年度竣工予定の工事・○継続工事)

【鉄道事業】 115億円

1. 安全・安定輸送の確保

○ホームドアの設置

駅ホームにおける安全性向上のため、2022年度末までに相鉄線全駅にホームドアを設置します。今年度はホームの補強や列車定位置停止装置（TASC）等の準備工事を実施します。2019年度末までに海老名駅、2020年度末までに二俣川駅、大和駅、湘南台駅に設置予定です。なお、ホームドアの設置にあたっては、国および地方自治体の協力のもと進めてまいります。



相鉄線 横浜駅のホームドア

○相模鉄道本線（星川駅～天王町駅）連続立体交差事業

踏切事故と交通渋滞の解消などを図るため、星川駅と天王町駅を含めた約1.8kmを高架化し、9カ所の踏切を除却します（2022年度に着工）。2016年度は下り線の高架化を実施。今年度予定している上り線の高架化に向けて引き続き工事を進めます。

*本事業は横浜市の都市計画事業です。



星川駅上り線高架ホーム（工事中）

○トンネルの内部改修

万騎が原トンネル（横浜市旭区）内部の改修（2016年度着手）を実施し、コンクリート片の剥落を防止することで、安全性強化を図ります。



万騎が原トンネルの内部の様子

○変電所設備の更新

各変電所の主要設備を更新し、電車・施設への電力送電の保安度向上を図ります。

2. サービスの向上

○新型車両「12000系」の導入

2019年度下期（予定）に相鉄・JR直通線、2022年度下期（予定）に相鉄・東急直通線の開業に向けて、順次新型車両を導入します。今年度は、相鉄・JR直通線用の新型車両「12000系」を1編成10両導入する予定です。

○9000系車両リニューアル

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、車両リニューアルを進めています。車体を「ヨコハマネイビーブルー」に塗装するほか、座席のバケット化などの内装改良や車内案内表示の液晶画面化などを行います。今年度は、5編成目となる1編成10両のリニューアルを予定しています。



9000系リニューアル車両

○8000系車両の機器更新

8000系車両のVVVFインバータ装置（モーター制御装置）とSIV補助電源装置等を新装置に交換し、保安度の向上を図ります。また、空調システムを改良し、車内環境の快適性向上を図ります。今年度は、VVVF装置等の更新を2編成20両、冷房システム改良を1編成10両予定しています。

○駅舎のリニューアル [西横浜駅・緑園都市駅・弥生台駅]

「デザインブランドアッププロジェクト」の取り組みとして、内外装の改修など駅舎のリニューアルを進めています。今年度は、西横浜駅、緑園都市駅、弥生台駅のリニューアルを予定しています。



リニューアルした大和駅

◎二俣川駅増築

二俣川駅南口再開発事業に合わせて、駅舎のリニューアルを実施しています。増築した駅舎ビル3、4階の「ジョイナス テラス二俣川」の完成に続き、今年度は駅舎2階のリニューアルを進めます。

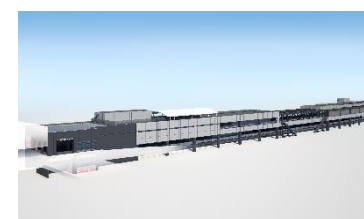


リニューアル工事が進む二俣川駅

○海老名駅総合改善事業

鉄道駅総合改善事業（形成計画事業）として、北口および南口2階への改札口増設、ホームドアの新設、保育施設を整備し駅舎の建て替えを行います。

*イメージ図は、現時点での完成イメージであり、変更となる可能性があります。



海老名駅イメージ図

○待合室の新設 [西横浜駅・鶴ヶ峰駅・弥生台駅]

電車を快適にお待ちいただくため、ホームに待合室を設置します。今年度は西横浜駅・鶴ヶ峰駅、弥生台駅を予定しています。



ホーム待合室（いずみ中央駅）

○行先案内表示装置の設置

[上星川駅・南万騎が原駅・弥生台駅・ゆめが丘駅・西横浜駅]

列車種別・発車時刻・乗り換え案内等を表示する行先案内表示装置をホームや改札口付近に設置し、お客さまへの案内サービスの向上を図ります。



行先案内表示装置（希望ヶ丘駅）

[バス事業] 11億円

◎乗合バスの導入（大型19台）

環境にやさしく、乗り降りがしやすいニーリング機能※3付きノンステップバスを19台導入します。



導入予定の乗合バス

◎高速バスの導入（2台）

安全性の高いASV型の高速バス2台を初めて導入します。

※1 「デザインブランドアッププロジェクト」とは・・・

相鉄グループは、2017年12月に創立100周年を迎え、その後も都心への相互直通運転を予定していることから、お客さまとの最大の接点となる鉄道の駅舎や車両、駅に隣接する商業施設などを統一したデザインコンセプトに基づきリニューアルを進め、認知度や好感度を高めることで「選ばれる沿線」を実現するための取り組み。

※2 ASV型とは・・・

Advanced Safety Vehicle（先進安全自動車）の略。衝突被害軽減ブレーキ、車間距離保持機能付オートクルーズ等の先進技術を利用してドライバーの安全運転を支援するシステムを搭載した自動車。

※3 ニーリング機能とは・・・

エアサスペンションの空気圧を調整して車体を傾けることにより、乗降口側を低くして乗り降りを容易にする機能。